

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) In vivo evaluation of supersaturation/precipitation/redissolution behavior of cinnarizine, a lipophilic weak base, in the gastrointestinal tract: the key process of oral absorption.	共著	2017年1月	Eur J Pharm Sci.	In vivoにおいて弱塩基性物質のシナリジンの過飽和、沈殿、再溶解過程について、経口吸収効率の向上を検討した。 (田中佑典、川上彩花、何松亜美、堀尾美咲、松岡純平、和田貴美、 <u>笠岡敏</u> 、吉川広之) 担当部分：シナリジンの物性評価。(担当頁特定不可能)
2 (学術論文) In vivo analysis of supersaturation/precipitation/absorption behavior after oral administration of pioglitazone hydrochloride salt; determinant site of oral absorption.	共著	2017年8月	Eur J Pharm Sci.	In vivoにおいてpioglitazoneの過飽和、沈殿、再溶解過程について、経口吸収効率の向上を検討した。 (田中佑典、川上彩花、今井聡、伊藤貴文、佐伯和紀、 <u>笠岡敏</u> 、吉川広之) 担当部分：pioglitazoneの物性評価。(担当頁特定不可能)
3 (学術論文) The influence of viscosity-enhancing agents on oral absorption of drugs.	共著	2019年11月	Pharmazie.	経口医薬品における増粘剤の影響調査を行った。 (田中佑典、松原里沙、古川加奈、里中聖羅、 <u>笠岡敏</u> )
4 (学術論文) Intraluminal Behavior of Various Transporter Substrates in the Rat Gastrointestinal Tract	共著	2021年	J Pharm Pharm Sci	ラット消化管における、種々のトランスポーター基質の挙動の検討を行った。(田中佑典、原田太樹、伊東和弘、倉員隆則、 <u>笠岡敏</u> )
5 (報告・発表) 中性子捕捉療法を目的とした膜流動感受性ボロンハイブリッドリポソームの開発	共著	2018年3月	日本薬学会第138年会	メラノーマBNCTに用いる新規リポソームを調製し、細胞透過性ペプチドによる腫瘍標的性を評価した。 (國澤敦、 <u>笠岡敏</u> 、沖島由起、田中佑典、吉川広之、田中佑典、吉川広之、増永慎一郎、小野公二) 担当部分： BSH 封入腫瘍標的型細胞透過性ペプチド結合リポソームの調製と物性評価。腫瘍標的性の評価
6 (報告・発表) 中性子捕捉療法を目的としたBR2ペプチド結合ボロンハイブリッドリポソームの開発	共著	2018年3月	日本薬学会第138年会	メラノーマBNCTに用いる新規リポソームを調製し、細胞透過性BR2ペプチドによる腫瘍標的性を評価した。 (平町隆明、 <u>笠岡敏</u> 、小石雅也、二木秀仁、田中佑典、吉川広之、田中佑典、吉川広之、増永慎一郎、小野公二) 担当部分： BSH 封入腫瘍標的型細胞透過性ペプチド結合リポソームの調製と物性評価。腫瘍標的性の評価
7 (学術論文) Selective Accumulation of Boron-conjugated Liposomes Composed of Dimyristoylphosphatidylcholine to B16F10 Murine Melanoma Cells in Relation to Fluidity of Cell Membranes.	共著	2018年10月	KURNS Progress Report	DMPCを主要構成脂質とした膜流動感受性ボロンリポソームを調製し、腫瘍標的性を評価した。さらに、BNCTにおける治療効果を検討した。 ( <u>笠岡敏</u> 、國澤敦、沖島由起、田中佑典、真田悠生、櫻井良憲、増永慎一郎、小野公二) 担当部分：膜流動感受性ボロンリポソームの調製と物性評価。腫瘍標的性の評価。BNCT効果の検討。